

評価実施年度	令和 6 年度	学校名	大分県立 玖珠美山 高等学校	
学校教育目標	「自立・創造・協同」の校訓のもと、高い識見と豊かな情操を養い、社会を逞しく生き抜く力を身につけた、心身ともに健全な生徒の育成			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・昨年までの学校経営ビジョンを踏まえた運営がなされている。 ・教職員が一丸となって地域に根差した学校づくりに取り組んでいる。 ・学校の実態や課題をしっかりと把握し、その改善に向けて確実に対応がとられている。	・令和3年度から継続している「スローガン」「学校教育目標」を、現在の社会変化や生徒の状況に合わせた内容の変更に着手する。 ・「スローガン」等の変更後も、全教職員で「学校教育目標」達成に向け取り組んでいく。また、地域への周知、広報活動も広く行う。
	P D C A サイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなど P D C A サイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・極めて良い。 ・生徒及び保護者へのアンケートを活用しながら、年度計画の策定や指標の検証が行われている。 ・次年度に向けた行事の見直しでは、限られた人員での効果的な学校経営が図られ目標を達成できている。 ・学校改善のための組織的体制が整備されている。 ・今後も分掌等が効果的に機能するよう、学校の方針が教職員へ引き続き周知徹底されるものと期待できる。	・生徒及び保護者アンケートの質問項目が、重点目標が達成されるための指標として適切な内容となっているかを点検し、必要であれば改善する。 ・アンケート結果が、前年度と大きく変化した項目については検証し、具体的な教育活動の改善が必要となれば早急に対応する。 ・学校行事の振り返りをアンケートをもとに、担当分掌、運営委員会で見直し、改善、次年度の計画につなげる。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・学校運営協議会制度が十分に活用されている。 ・学校関係者評価、広報、中高連携推進等、地域の期待や要望を踏まえて学校改善が進められている。 ・様々な方法によって活発な情報発信が行われ、成果に繋がっている。 (中学校への出前講座やオープンスクール、ホームページの活用、広報紙の発行、回覧板の活用検討等)	・11年目となる学校運営協議会を活用して、地域からの人材活用等を継続して実施する。 ・学校運営協議会では、本校の魅力を地域の内外に発信する必要性について頻繁に協議されており、今後はホームページの更新や広報紙の作成・配布に続き、SNSの活用を検討していく。 ・ホームページに保護者の視点を取り入れ、保護者への情報発信を積極的に行う。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・指導教諭を中心として授業改善の取組がなされている。 ・ICT活用や発問、振り返り等を意識した対話的な学びが展開されている。 ・生徒の希望進路の実現に向けた中・高の連携が継続されている。 ・習熟度別クラス編成や希望進路ごとの指導等、生徒個々に応じた教育が積極的に行われている。 ・地域の課題探究プロジェクトは、生徒を育てると共に地域からも信頼される取組となっている。 ・ICT活用や授業展開の在り方に教員間でばらつきがある。 ・生徒の学習意欲を更に向上させるため、選択教室のICT環境整備も含めた更なる改善に取り組んでほしい。 ・学習習慣の定着に向けて、家庭との連携や授業改善等の更なる取組が望まれる。	・年間2回の授業研究会、互見授業を通して授業改善に向けての取組をさらに進める。 ・生徒による授業アンケートを分析し、生徒個人の思考が深まる授業が実践できるように教科会議等を活用したPDC Aによる授業改善を図る。 ・授業アンケートの結果は、肯定的な回答が多いが、学校行事の内容や実施時期の検討、暑さ対策などを検討する必要がある。 ・ICTの活用については、年度ごとに計画的な研修を継続して実施することで、全教員のICT活用能力の向上を図り、個別最適学習が実践できるように取り組む。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・いじめや不登校に対して、学校全体が関わる体制が確立されている。 ・教職員の組織的対応や教育相談コーディネーターの活用、カウンセリングの実施等、適切である。 ・入学後は不登校がほとんど見られなくなっており、生徒相互の人間関係の良さが伺えた。	・学期始めに面接時間を設定し、生徒把握に努め、スムーズに学校生活に入れるように配慮する。 ・いじめや不登校生徒へのアプローチを丁寧に行い、スクールカウンセラーや外部機関とも連携しながら、組織的に対応する。 ・生徒にとって居心地の良い、安心して過ごすことができる環境づくりを今後も継続して行う。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・良い。 ・情報モラルや交通安全に関する講演会等が実施されており、ルールやマナーに関する教育が充実している。 ・大雨等の非常災害時の臨時休校などの判断が早い段階で行われている。 ・生徒の安全を確保する体制が整えられていると共に、保護者に対する連絡も適切に行われている。 ・安全点検及び危険箇所についてのアンケート調査が毎月実施され、安全・安心な学校づくりが実践されている。	・情報モラルや安全教育に関する講演会を継続して行い、マナー教育に力を入れたい。 ・学校施設や通学路等の安全点検を、毎月職員及び生徒で行い、危険箇所等あれば速やかに対応し、安全管理に努めたい。 ・大雨や大雪などの非常災害時には、生徒の登下校の安全を第一に考え、緊急対応を行っていききたい。 ・危機管理マニュアルの周知・徹底を年度当初をはじめ、定期的に行う。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・週の授業時間の削減や中間考査・土曜講座の見直し等、業務改善に向けた様々な取組がなされている。 ・部活動においても、部の精選と外部指導者の活用がなされている。 ・前回第三者評価を行った令和3年度と比較して、超過勤務が確実に減少している。 ・進行中となっている業務改善については、目標の達成に向けた組織的な取組の継続が期待される。 ・教員の欠員については、大分県教育委員会の協力による早急な対応が望まれる。	・放課後の有効活用のため、6限目を2日とする。 ・土曜講座については、職員の勤務環境や運営方法を総合的に判断し、廃止とする。 ・中間考査については、廃止も含めて縮小化を来年度よりしていきたい。 ・生徒の育成や全体バランスの観点から、学校行事のスクラップや業務削減を行っていききたい。
	学校課題の解決に向けた取組等	○人権意識を高めるための教育が行われているか。 ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	・人権HRAの実施や教職員による人権教育関係団体との対話会の開催等が計画的に開催されている。 ・生徒及び教職員が共に人権意識を高めるよう努めており、豊かな人間性の育成が推進されている。 ・地域に対して積極的な情報発信が行われている。 ・スクール・ミッションに示す「開かれた学校づくり」の実現が図られている。 ・今後も「地域の学校」としての更なる発展が期待される。	・職員の人権意識高揚のため、人権教育関係団体との対話会や校内での人権教育研修会を計画的に実施したい。 ・生徒の人権意識を高めるために、人権HRAの公開や計画的かつ効果的な実践を行いたい。 ・スクール・ミッションを教職員へ周知・徹底するとともに、その実現に向けて組織的に教育活動に取り組むたい。 ・郡内唯一の高校、地域に信頼される学校として、地域や小中学校との連携をさらに進めていきたい。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題を題材とした探究学習や充実した人権教育等、地域性や学校の特色を生かした教育活動が行われている。 ・地域からの信頼を得て入学定員が充足し、生徒の多様な進路希望や学力にも対応しつつ、充実した学習指導や生徒指導が行われており、更なる成果があがるものと期待される。 ・今後少子化が進む中で、地域の核となる学校として更なる発展が望まれる。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に信頼される学校を目指し、学校教育目標やスクール・ポリシーの達成に向けて、教職員一丸となって生徒に身に付けさせたい力を意識した教育活動の取組を実施していきたい。 ・生徒の進路目標達成をはじめ、生徒の幸福度、満足度の向上のため、教員の授業力を向上させ、生徒の思考力・判断力・表現力の育成に努めたい。 ・本校の取組や生徒の頑張りが本校の魅力を保護者や地域、小中学校に向けて、情報発信をしていきたい。 			